

軟式野球部 国民体育大会優勝おめでとう!!



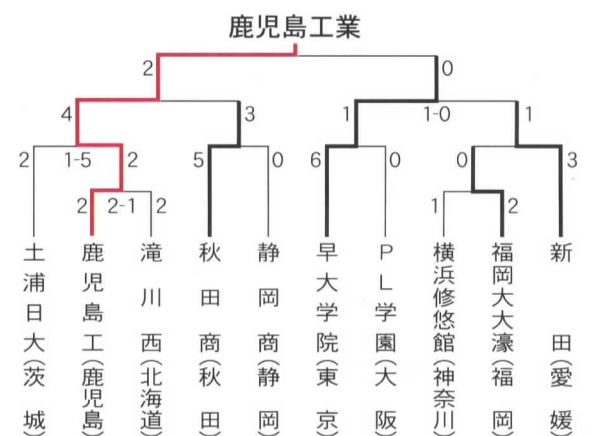
■ 監督から



軟式野球部監督 松崎健司



「八丈の空を紫に染めよう」そう言って試合前ベンチから選手を送り出しました。第68回国民体育大会公開競技高校野球軟式の部、決勝戦、開催地代表の早稲田学院高校相手に主戦井上が4連投の疲れも見せず完封勝利。最後のボールはファーストへのフライ。優勝した瞬間というのは、私がイメージしていたものとは違い、もっと歓喜に踊り涙が出るのかと思っていましたが意外に冷静だったのを覚えています。チーム結成当初は終盤に逆転負けの場面が多く、精神的な弱さが目立ちました。1・2回戦は延長タイブレークを制し、準決勝は秋田商業に9回逆転勝ち。粘り強さを十分に発揮してくれました。これも日々の練習の成果といたのですが、選手達の力の原動力は、この鹿工の環境こそが源だと思っています。ともに学び、手本となる部活動に囲まれ、鹿工の中で過ごせる環境こそが軟式野球部を育ててくれたと感謝しています。これから先、優勝した瞬間を一生忘れることはないでしょう。一番長く熱い高校野球をやれた選手達と彼らを育ててくれたこの鹿工を誇りに思います。



■ 主将から



軟式野球部主将 二ノ方 裕 史

「日本で一番長い夏にしよう」これは、最後の夏の大会を前に三年生で決めた合い言葉です。全国制覇するまでの道のりは長く険しいものでした。



夏の大会が開幕する約一年前。一つ上の先輩方が、全国大会出場へあと一步届かず惜敗してしまいました。この悔しさが、私達の原点でもありました。しかし、新チームが始動しても思うように試合に勝つことができず、一点を争う緊迫した展開になると守りが乱れてしまう悪い癖があり、精神面で弱いところがありました。そこでミーティングを重ね、選手一人一人の意識が変わり、練習に取り組む態度が改善し、夜遅くまでの自主練習を繰り返しました。

迎えた夏の大会。県大会は本当に接戦でしたが、このような試合展開をものにできたことが成長した私たちの姿なのだと思います。

その後、南部九州大会を勝ち抜いて全国大会に出場しましたが、準々決勝で涙をのみました。しかし、今回、全国大会で味わった悔しさを国体で返すことができ本当に嬉しかったです。また、三年生全員で有終の美を飾りたかったのですが就職試験と重なり、八丈島で全員で戦うことはできませんでした。しかし、全員の思いを胸に戦い、優勝できたので良かったです。

このような結果を残すことができたのも、八丈島大ではるばる駆けつけてくださったＯＢの方々、学校関係者、保護者の方々、また、八丈島島民の方々、大会役員の方々の御声援や御支援が選手一人一人の力になったからだと思います。心から感謝しています。今大会の経験を財産にし、日々感謝の気持ちを忘れず精進していきたいと思っています。たくさんの御声援、御支援本当にありがとうございました。

学校名 鹿児島県立鹿児島工業高等学校〈軟式〉		学年	投 打		出身中
背番号	(フリガナ) 氏 名				
1	イノウエ タイキ 井 上 大 輝	3 年	㊦ 左	㊦ 左	城 西
②	ニノカタ ヨウシ 二ノ方 裕 史	3 年	㊦ 左	㊦ 左	吉 野
3	マルイ アツヤ 丸 井 敦 也	3 年	㊦ 左	㊦ 左	明 和
4	イマオ シュウタロウ 今 尾 俊太朗	3 年	㊦ 左	右 ㊦	城 西
5	マツナガ タイスケ 松 永 大 祐	3 年	㊦ 左	右 ㊦	城 西
6	ヨシナガ ユウキ 吉 永 裕 貴	3 年	㊦ 左	㊦ 左	武
7	シモヒゴシ ケン 下吹越 賢	3 年	㊦ 左	㊦ 左	武
8	ナカジマ ケイスケ 中 島 慧 亮	3 年	㊦ 左	右 ㊦	郡 山
9	カワノ タロウ 川 野 太 郎	3 年	㊦ 左	㊦ 左	桜ヶ丘
10 (外)	マツナガ タイキ 松 永 大 輝	3 年	㊦ 左	㊦ 左	和 田
11 (投)	カワマタ シュン 川 俣 駿	2 年	㊦ 左	㊦ 左	喜 入
12 (捕)	ハマダ ユウリ 浜 田 悠 理	2 年	㊦ 左	㊦ 左	長 田
13 (内)	クラマエ リョウ 藏 前 涼	1 年	㊦ 左	㊦ 左	城 西
14 (内)	ナカミチ ショウゴ 中 道 省 悟	2 年	㊦ 左	右 ㊦	吉 野

大会風景と優勝報告会

